

## 第 40 回北九州市 PCB 処理監視会議

1 開催日時 平成 30 年 7 月 25 日（水）14:00 開始 16:00 終了

2 開催場所 若松市民会館 小ホール

### 3 会議次第

- (1) 北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況等について
- (2) 今後の安全かつ早期の処理完了に向けた取組について
- (3) その他

### 4 出席者

#### (1) 委 員

浅岡 佐知夫	座長	内山 仁志	委員
清田 高德	委員	郡山 一明	委員
古柴 敏夫	委員	末松 正典	委員
高尾 俊春	委員	津田 潔	委員
成田 裕美子	委員	沼田 文子	委員
平野 建	委員	松永 裕己	委員

#### (2) 中間貯蔵・環境安全事業株式会社

事業部長	吉口 進朗
事業部次長	足立 晃一
解体・撤去準備室長	大木 健司
事業部安全操業課 上席調査役	甲斐 文祥
営業部営業企画課長	福嶋 慶三
環境安全監査室 北九州環境安全監査職	吉田 春彦
北九州事業所長	安井 仁司
北九州事業所副所長	宗佐 和彦
北九州事業所 所付	岳田 正徳
北九州事業所 総務課長	中村 誠也
北九州事業所 安全対策課長	中尾 修一
北九州事業所 運転管理課長	大山 公人
北九州事業所 運転管理課 上席調査役	佐藤 淳
北九州事業所 営業課長	宮本 修治
北九州事業所 近畿・東海エリア分室長	小河原 正嗣

北九州事業所 シニアアドバイザー

入江 隆司

(3) 関係行政機関

環境再生・資源循環局 廃棄物規制課長	成田 浩司
環境再生・資源循環局 廃棄物規制課長補佐	福井 和樹
環境再生・資源循環局 廃棄物規制課長補佐	亀井 雄
九州地方環境事務所 福岡事務所長	岡山 俊直
九州地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策調査官	辻村 英樹
九州地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策調査官	山下 和俊
北九州西労働基準監督署 安全衛生課長	高野 隆一郎
若松区海上保安部 海上環境係長	堤 潤
福岡県環境部廃棄物対策課長補佐	船津 孝

北九州市

環境局長	近藤 晃
環境局環境監視部長	谷貝 雄三
水産課長	樋渡 文隆
若松区役所コミュニティ支援課長	梶原 浩之
消防局規制課長	山下 一之
消防局警防課警防係長	澤田 博人

(4) 事務局（北九州市）

環境局環境監視部環境監視課長	宮金 満
----------------	------

5 議事概要

○事務局

定刻前ではございますけれども、委員の皆様お揃いでございますので、ただ今から第 40 回北九州市 PCB 処理監視会議を開会いたします。

まず初めに、お手元の配布資料の確認をさせていただきます。第 40 回北九州市 PCB 処理監視会議議事次第に記載している資料でございます。資料の 1-1 から資料の 3 まで、と別添で参考資料の 1、2、3 とご用意させていただいております。ご不足等ございましたら、事務局までお申し付けください。

次に、今回監視委員の方が一部交代されておりますので、ご報告させていただきます。2 名の交代の届け出がございます。大庭委員の後任といたしまして、

若松区自治総連合会の平野会長、坂田委員の後任といたしまして、若松区自治総連合会、濱小路副会長に委員にご就任をいただいております。どうぞよろしくをお願いいたします。ここで、平野委員から一言、ご挨拶をお願いいたします。

#### ○委員

皆さん、暑い中ご苦労様です。ただ今ご紹介いただきました、若松区自治総連合会会長を務めております、平野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○事務局

平野会長ありがとうございました。それでは、本日の監視会議委員の出席状況ですけれども、19名中7名の委員様ご欠席でございます。大石委員、梶原委員、河井委員、濱小路委員、古野委員、山口委員、吉永委員が所用によりご欠席でございます。今回12名のご出席でございます。

続きまして、環境省において、7月1日付で人事異動がっておりますので、ご紹介をお願いいたします。

#### ○環境省

環境省廃棄物規制課の亀井と申します。7月1日付でPCB担当に、隣にいる福井の後任として着任いたしました。早期処理に向けて取組んで参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

#### ○事務局

ありがとうございました。それでは開会に当たりまして、北九州市環境局長の近藤より、一言ご挨拶を申し上げます。

#### ○北九州市

開会に当たりご挨拶を申し上げます。委員の皆様方におかれましては、日頃から北九州PCB処理事業をはじめといたしまして、環境行政にご理解をいただいております。この場をお借りいたしまして、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

また、本日はお忙しい中、そして、この猛暑の中で、第40回となりますPCB処理監視会議に、ご出席をいただきました。重ねて御礼を申し上げます。

午前中には、事業所内への立ち入りも、行っていただいたと伺っておりますが、長時間に渡りまして、大変ご苦労をおかけいたします。どうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、北九州 PCB 処理事業でございますけれども、現在、全国の中で最も早いスケジュールで、推移をしておるところでございます。ご承知の通り、来年 3 月末日には、北九州事業エリアにおける、変圧器・コンデンサーの計画的処理完了期限を迎えることとなっております。このため、JESCO、国、そして、北九州市の他、関係自治体も含めた連携体制により、処理の進捗を適切に管理しているところでございます。

さらに、期限内に確実に処理するため、行政処分の実施も含めた、あらゆる措置を講じているところでございます。

また、PCB 廃棄物の処理に当たりましては、安全性を確保することが、大前提でございます。JESCO、国、北九州市の 3 者が連携を図り、しっかりと安全対策に取り組まして、現在、軽微な事象も減少しております。大きなトラブルにも、繋がっていないところではございますが、引続き処理の安全性の確保に、努めて参る所存でございます。

本日の会議におきましては、処理施設の操業状況、あるいは環境モニタリングの結果等のご報告に加えて、期限内処理の見通し、そして、今後の安全かつ早期の処理完了に向けた具体的な取組み、事業終了を睨んだ、処理施設の解体撤去の進め方につきましても、それぞれの立場からご報告をさせていただきます。委員の皆様方におかれましては、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。本日は最後までどうぞよろしくお願い申し上げます。

#### ○事務局

ありがとうございました。それでは、ここからの議事進行につきましては浅岡座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### 議題 1 北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況等について

#### ○座長

それでは、本日の議事に入りたいと思います。まず、第 1 番目の議題である北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況等について、最初に JESCO から説明をお願いいたします。

#### ○JESCO

北九州 PCB 処理事業所長をしております、安井でございます。資料 1-1 に従いまして、ご説明させていただきます。

資料 1-1 の 1 ページに表 1 をつけてございます。こちらは、6 月末までの処理状況ということで、前回、1 月の監視会議では、12 月までの処理状況として

おりましたが、6ヶ月進捗した状態の数字と変えさせていただいております。

左側縦の軸には、上から変圧器類、コンデンサー類、安定器及び汚染物等ということで3品目。横軸の方は、左から北九州事業エリア、もともとの処理対象エリアでありました、中国、四国、九州、沖縄17県のもの。右に行きまして、東京事業エリア、豊田事業エリア、大阪事業エリアということで、平成27年以降、処理をさせていただいております。

1番上の変圧器類の北九州事業エリアでございますが、処理が終わった台数が2,693台となっております。処理対象台数として2,700台ですので、あと7台が残っている状況でございます。

変圧器類につきましては、当事業所の1期施設、2期施設、2つ施設がある内、1期施設の方で処理をしておりますが、こちらは7月いっぱい定期点検でございますので、8月以降この残り7台を、早期処理に向けて取り組む所存でございます。

右の方にいただきまして、豊田事業エリアからの変圧器でございます。これは車載変圧器というものでございますが、98台の処理を終えております。前回、監視会議の資料では、処理対象台数として111台という数字を記載しておりましたけれども、下の方にもコメントを記載させていただいておりますが、弊社の豊田PCB処理事業所との搬入調整の結果、平成30年度以降の北九州への搬入を取りやめる、ということになりましたので、処理対象台数自体も98台ということで、こちらは100%処理が終わった、というところでございます。

次に、コンデンサー類でございます。処理台数が50,717台となっております。処理対象台数と考えておりますのが、51,605台でございますので、98.3%の処理の進捗でございます。約900台位がまだ残っている、というところでございます。

右の東京事業エリアでございますが、こちら処理台数が6,598台でございます。処理対象台数、こちら前回の資料では7,000台という、切りの良い数字を記載させていただいておりますが、この3月末時点で登録された台数6,932台を処理対象台数ということで、68台減っております。処理率としてこちら、95%を超えてきているところでございます。

この変圧器類及びコンデンサー類につきましては、後ろの方のページで、今年度中の処理完了に向けての取組等の説明を追加させていただきます。

続きまして、安定器及び汚染物等でございます。北九州事業エリアの処理重量が3,027tとなっております。処理対象重量といたしまして3,174t、95%をこちらを超えてございます。豊田事業エリアと大阪事業エリアの処理重量ですが、それぞれ、813tと733tとなっています。処理率としては38.7%ということで、前回より約8%進捗したところでございます。1ページ目につきましては、

下の方に、今説明した内容を文章で記載させていただいておりますが、1 ページの1 番下の段でございます。安定器及び汚染物等の3 番目、安定器の処理対象量の適正化のため、これも前回監視会議で説明させていただきましたが、昨年の12 月から、事業所内で安定器の仕分け、という作業を実施させていただいております。こちら早期処理のため、継続して取組んでいくところでございます。

2 ページ目の1 番上でございます。小型電気機器の一部を真空加熱分離装置での分離処理により無害化する取り組みでございますが、こちら前回の監視会議でご説明させていただいております。その後も、取組みを進めております。こちらは資料の2-1 の方で説明を追加させていただきます。

(4) 運転廃棄物類でございます。こちらは、弊社の事業所間を移動しての処理となります。北九州事業所からは、東京事業所の方へ廃粉末活性炭という運転廃棄物を、平成27 年7 月から、計画量の一部の搬出を開始しておりましたが、東京事業所でのトラブル、その後の改修工事の関係で、搬出を止めておりました。現在、北九州事業所といたしましては、処理対象となっておりますコンデンサー、この年間処理台数が、かなり減少してきておりますので、北九州事業所内でも、この廃粉末活性炭の全量処理が可能となっておりますので、本年1 月以降、東京への搬出を取りやめたところです。

大阪及び豊田から受け入れ予定の運転廃棄物でございますが、こちらは、平成27 年10 月から搬入を開始し、その後、一時停止をしておりましたが、平成28 年6 月から搬入を再開し、処理を続けてきております。

続きまして、(5) ポリ塩化ナフタレンという化学物質が含有した、PCB 油の無害化処理でございます。昨年、ドラム缶1 缶に入りましたPCB を含んだ油が、施設内に搬入されました。PCB 濃度等は低かったわけですが、他の物質がどういふものかということで、分析し確認したところ、ポリ塩化ナフタレンという化学物質が含まれているということが、判明しております。このポリ塩化ナフタレンは、下の方に注意書きで記載しておりますが、PCB やダイオキシン類と同じく、環境中での残留性が高いとの評価がなされている物質、ということから、平成27 年5 月開催のストックホルム条約の締約国会議におきまして、このポリ塩化ナフタレンの内、塩素数が2 以上のものにつきましては、この条約の定めによりまして、廃絶とか否意図的放出の削減、という取り組みの対象物質に追加される事が決定されております。それを受けまして、私どもの他の事業所、大阪事業所・豊田事業所では、先にこういったものが見つかっておりまして、学識者の意見も聞きながら、また環境省様のご意見も聞きながら、それぞれの事業所で処理をした実績がございますので、そういった知見を確認しつつ、この北九州事業所でも年度内の処理をすることを考えております。

なお、豊田事業所におきましても北九州事業所と同じく、金属ナトリウム、S D 剤を使つての脱塩素化分解でございますが、豊田の方では通常通り処理を終えているところでございます。

続きまして、3 ページの別添 1 でございます。これまでの会議でも添付させていただいております、それぞれの操業状況の表でございますが、3 ページは受入状況の表になっております。変圧器、コンデンサー、安定器及び汚染物等につきまして、各年度、平成 30 年度に入ってから各月毎、黄色にハイライトしている部分が、前回の資料からの追記・修正部分になります。

次のページは、油で容器に入った物、また保管容器、この受入状況を 4 ページに記載しております。

5 ページにつきましては、先に表 1 の方で説明しましたけれども、処理状況ということで少し分類方法を変えた形、各年度、各月でどれだけ処理をしているかということに記載しております。

6 ページ以降は、処理に伴いまして発生します有価物、鉄とか銅、処理済油そういったもの。また、産廃として処理委託をしている物として、廃トリクロロベンゼンとか、含浸物、碍子、プラズマ固形物こういったものをどういった頻度で外部に処理委託し、どれぐらいの量を払い出ししているか、というものを、同じく年度毎、月毎で実績を記載しております。

9 ページの北九州事業エリアの変圧器・コンデンサー等の処理完了に向けた取組みでございます。1. 変圧器・コンデンサー等の処理委託契約の状況ですが、私どもが無害化処理をするまでには、いろいろな過程を経る、というところがございます。どこに、どういう大きさの PCB 廃棄物があるか、ということが判明いたしますと、私どものところに、登録といった手続きをしていただきます。登録をいただいた後、私どもと処理委託契約をしていただきまして、また専門の収集運搬事業者様との契約で、いつ搬入するかが決まって、私どもの施設内に搬入し、処理が始まり、処理が終わるということでございます。

その中で(1)について、処分期間とあります。処分期間は、実は、今年の 3 月 31 日で終わってございますが、この 3 月 31 日までの取組の結果ということになります。北九州事業エリア 17 県におきます変圧器、コンデンサー等の処分期間は、本年 3 月末ということで、これに向けまして各自治体と連携し、未処理事業者の一覧といったものを整理いたしまして、これをベースに各自治体様、環境省地方環境事務所様、また経済産業省産業保安監督部様と連携しながら、これらの処理委託契約締結のために、促進活動ということで取り組んで参りました。

①が掘り起こし等の結果ということで、どこにあるかという最終確認という事になります。各自治体を中心に行われました、この掘り起こし等の取組によりまして、昨年度の後半から新たに見つかった変圧器・コンデンサー等につきまして、

表 1 のところに数字で示させていただいております。

昨年 9 月でありますと、新しく持っている登録された事業所が 133 あって、変圧器は 0、コンデンサーは 241 台が登録されたという数字でございます。これが 9 月以降 11 月位まで、順次新しく見つかるものは減っていた訳でございますが、2 月に 70 件、3 月に 158 件と急増してございます。

この背景といたしましては、各自治体で取組まれました掘り起こしの最終追い込みということで、それに伴います確認通知作業といったことが実施されたこと、また、政府によりまして TV コマーシャル 15 秒がスポット放映されたことによりまして、駆け込みがあったということが理由として挙げられます。

②のところでございます。登録いただいたものが次に、契約という手続きに入りますが、まだ契約いただけていなかった事業者数がどういう状況であったかということで、昨年 9 月末から 3 月末の時点で、どれだけ残ったかという数字を下の方の表に記載させていただいております。

昨年 9 月の段階では 312 件あったものが、登録等もありなかに、契約を進めまして、3 月末では 45 件が残ったというところでございます。色々な取組をしましたがけれども、契約や登録に応じていただけない方ですとか、また 3 月下旬になって登録があったために、契約手続きが時間的に間に合わなかった方がいらっしやった結果、45 件が残ったというところでございます。

次のページ、4 月以降の状況と取組というところになります。今年度に入りますと、法に基づきます処分期間は終了しておりますので、行政処分の対象ということになりますけれども、当社といたしましては、手続きに応じていただき、処理に応じていただける事業者様につきましては、速やかに契約手続きを進めると共に、その他の事業者様について、行政への迅速かつ緊密な情報共有といった形をとっております。

この結果、以前から契約手続きに応じていただけない事業者様、また、契約締結後に期限までに入金いただけなかったために、契約解除となった事業者様が残る一方、本年 3 月下旬に登録があったために契約手続きが間に合わなかった方、また、今年度に入ってから新たに登録された事業者様について、概ね処理委託契約の締結を終えるということで、未契約事業者数は着実に減ってきておりまして、6 月末時点で 23 件となっております。

今年度に入ってからのもので、表 3 に記載しておりますが、図 1 の方は、昨年 9 月からのものでございますが、未契約の事業場数。9 月 312 件あったものが 6 月に 23 件に減ったというところでございます。

今後の対応と処理の見通しでございます。(1) 今後の対応と当社の取組でございますが、計画的処理完了期限となります今年度末、来年の 3 月 31 日でございますけれども、この変圧器、コンデンサー等の処理完了に向けまして、引き続き自



治体様、環境省地方環境事務所様、経済産業省産業保安監督部様等の関係機関と緊密に連携いたしまして、本年4月以降の登録分につきましても、スピード感を持って円滑な契約事務を推進するとともに、収集運搬事業者様とも協力連携しながら、円滑に事業所内へ搬入していただき、処理を進めていきたいと考えてございます。

続きまして、11 ページでございますが、行政処分対象者ということになります。現時点で、資金難でありますとか、処理制度に異義がある等の何らかの理由で契約の手続きに応じただけでない方等や、また保管事業者が不明・不存在といった案件につきましては、各都道府県等にて PCB 特別措置法に基づきまして、改善命令等の発出、また、行政代執行に向けた手続きを進めていただいております。当社といたしましても、こうした行政の対応に合わせまして、契約事務等を進めてまいります。

処理の見通しとなります、6月30日時点では先ほど申しました通り、変圧器は残りが7台となっておりますので、定期点検終了後の8月から処理を再開し、早期に処理をするという事で考えてございます。

コンデンサーの残処理台数は約1,200台でございます。北九州エリアの900台と東京エリアの300台となっております。コンデンサーの処理能力、年間4,500台程度は十分処理可能でございますので、保管事業者様と搬入時期を調整の上、順次早期に搬入処理を進めておりまして、期限内処理を達成する見通しでございます。北九州エリアにつきましては、持っておられる方がほとんど1台2台といった少量の保管事業者様でございますので、収集運搬事業者様の協力を得ながら、ルート回収といった取り組みで効率的に集めていただきまして、搬入し処理を行うということに取組んでおります。

また、残り300台位になりますが、東京エリアから地域間移動するものにつきましては、多量保管事業者様が保管されておりますので、計画的に搬入いたしまして、早期に処理を行い年内には処理を行いたいというふうに考えてございます。資料の説明は以上でございます。

引き続き、資料1-2につきまして、私の方からご説明させていただきます。1 ページ目、冒頭3行書いてございます、2行目からでございますが、なお書きでございます。今年の4月1日から大気汚染防止法の一部改正に伴いまして、プラズマ設備から排出される排気の調査項目に、水銀が追加されてございます。

その下、上半分が JESCO の実施いたしました、この間の周辺環境モニタリング、また、排出源モニタリングの結果の概況でございます。

周辺環境でございますが、大気につきましては、PCB、ダイオキシン類、ベンゼン、全ての項目で環境基準値等適合してございました。

また、水質、地下水、土壌、底質、生物につきまして、PCB、ダイオキシン類ともに環境基準等に適合してございます。

排出源の方でございます。排気中のPCB、ダイオキシン類、ベンゼン、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素、ばいじん、水銀、すべての項目について協定値等に適合していたことを確認してございます。

また、排水中のPCB及び雨水中のPCB、ダイオキシン類並びに悪臭、騒音は基準に適合していたといったところでございます。

めくっていただきまして3ページからが詳細の結果となります。

別添1の3ページのところが周辺環境モニタリングでございしますが、昨年度の冬季、今年の2月実施分、また、今年の5月実施分の2回の測定結果でございすけれども、先ほど申しましたとおり、PCB、ダイオキシン類、ベンゼン共に、環境基準等に適合していたところでございます。

4ページから5ページにかけまして、水質、地下水、土壌、底質、生物といったものでございますが、29年度分の測定ということで、今年の2月の測定結果が新たに出ておりますが、問題はなかったというところでございます。また、水質につきましては、今年の春測定分の結果も出ておりまして、問題はなかったというところでございます。

続きまして、6ページ以降は排出源モニタリングでございます。各排気口から出る排気の分析結果で、こちらにも新たに判明した箇所を黄色でハイライトしてございます。特に問題はなかったかと思いますが、7ページのところの1G4と1G5でございすけれども、ここは今年度に入ってから測定の1回目が8月の中旬と言うことで、実施できておりません。この後ご説明させていただきますけれども、この系統は当初5月に測定を予定しておりましたが、設備トラブルがありまして、設備が止まっておりましたので測定が出来ませんでした。8月以降、測定時期をずらしまして今年度4回測定をしたいと考えております。

それ以降も、排出源モニタリングの結果を記載しておりますが、特設設備のトラブルなどもございせんでしたし、特設問題となるような数字ではなかったと評価をしてございます。

12ページの下が排水、13ページが雨水、悪臭、騒音といった内容でございまして、悪臭と騒音は29年度分ということで、今年の2月に実施したところ問題なかった事を確認してございます。

後ろのページ、モニタリングしたポイントが、14ページ以降に記しております。16ページ、17ページが、各排出源のサンプリングがこういった設備からのものかというのを付けておりまして、18ページに環境モニタリング計画をつけておりますが、真ん中あたり、上から2つ目の表の1番下に、水銀を追加しておりますが、1年に4回、当面の間は測定していこうと考えてございます。以上でござい

ます。

#### ○北九州市

続きまして、北九州市で行政測定をした結果についてご報告させていただきます。

1 ページ下段のところ、(1) 周辺環境については、大気につきましては、PCB、ダイオキシン類等、全ての項目について、環境基準に適合をしてございました。水質、土壌につきましても、PCB、ダイオキシン類共に、環境基準等に適合してございます。

続きまして、排出源でございますけれども、排出ガスにつきましても PCB、ダイオキシン類、ベンゼン、硫黄酸化物等、それに今回から加えました水銀、すべての項目について、協定値に適合をしてございます。

それから、公共下水道排水につきましても、PCB について基準適合しております。雨水、排水についても、PCB、ダイオキシン類ともに基準に適合してございます。

詳細は 19 ページ以降をご覧くださいと思います。まず、19 ページには周辺環境の結果を示してございます。黄色でハイライトをしているところが今回の測定結果ということになります。いずれも、基準に適合してございます。

20 ページにつきましては、周辺環境のうち、ベンゼンにつきましては、測定結果を各月ごとに示してございます。こちらにも値に特段問題はございませんでした。

21 ページには水質、底質、土壌という形で、測定結果をそれぞれ示してございますが、特段高い値が出ているという事はございません。

22 ページ以降につきましては、排出源の排出ガスについての測定結果でございます。いずれも、先ほどご説明申し上げた通り、環境基準、それから、協定値以内で推移をしているという結果でございました。以上でございます。

#### ○座長

では、今の説明に対して、委員の方から意見・質問等ございましたらよろしく願いいたします。

#### ○委員

資料 1-1 についてお伺いしたいのですが、全体的な進捗については、処理完了に向けて着実に進行しているように見えますので、特に注文つけるところではないのですが、1 点気になるところが、安定器及び汚染物等の豊田エリア、大阪エリアのところで、処理対象重量の②というのが以前から約 4,000 t という表記のままになっているのですが、その 1 つ上の登録重量を見ると、既に豊田エ

リア、大阪エリアを合計すると 4,000 t を超えて 4,800 t 位になっておるのですが、登録重量が既に増えてきているのに、対象数を 4,000 t のままにしているのは、何か事情があるのかどうか、それを 1 点、お伺いしたいと思います。

○座長

JESCO さんよろしく願いいたします。

○JESCO

まず登録重量 4,800 t となっているというところ、処理対象重量の約 4,000 t を超えておりますけれども、これは、この 4,800 t の中には安定器等を入れているドラム缶等の容器重量も含まれてございます。他方、「約 4,000 t」のところは、ただし書きをしておりますが、缶の重量は除く、ということです。平成 26 年当時、この豊田・大阪エリアのものを、北九州で処理をしていただくと決まったときの数字ということでございます。これに対しまして 4,800 t の約 1 割に相当しますが、ドラム缶等の容器の重量が含まれているということ、また、一度登録された方も、前回の監視会議でもご説明しました通り、多量に所有されておられる大企業様を中心に、再度保管場所で、PCB を使っていない安定器が混じっていないか、また、外付型の安定器で、リード線を切ることによって、処理する重量が約 10 分の 1 になるようなものがないか、といったことについて、協力要請をしております、そういった取組を進めてございます。そういったところもございまして、4,000 t よりは下回ると考えてございます。

○委員

そうすると、処理重量の①の所は正味重量で、登録重量のところは、入れ物の重量だとか、関係のない、該当しない物の重量も含まれているから、この意味合いが違うので、正味の PCB 関連の安定器の重量等については、この 4,000 t のままで良いのではないかと考えているのですね。

○JESCO

わかりにくい資料になっていて申し訳ございません。

○委員

はい、わかりました。

○座長

委員お願いします。

○委員

今の豊田エリア、大阪事業エリアの件に関してなのですが、今 38.7%ということと、あと半年の短い期間で、完全に処理が終わるのかということと、この後、増えることがないのか、ということの問題の 2 つをお尋ねしたいと思います。

○座長

JESCO さん回答をお願いいたします。

○JESCO

安定器及び汚染物等でございますが、こちらは、この後、資料の 2-1 の方で長期処理計画という形で、ご説明させていただきますけれども、変圧器及びコンデンサーが、あと 6 ヶ月程度、今年度末までに処理をしなければいけないのに対しまして、安定器及び汚染物等につきましては、計画的処理完了期限が、平成 33 年度末となつてございますので、あと 3 年半というところでございます。

処理すべき対象量が増えているという事への懸念でございますが、安定器及び汚染物等につきましても、いくつかの自治体では掘り起こしという最終確認の作業が、本格化して進んでございます。当社といたしましては、今後の掘り起こしによる処理量の増加も見込みつつ、今後も、より効率的な処理への努力を継続いたしまして、計画的に処理完了期限内に処理を終えるべく総力をあげて取り組みたいと考えてございます。

○委員

私の方からは、資料の 2 ページの運転廃棄物類の処理について、教えてもらいたいことがあります。今までは、東京事業所で行う予定のものを、北九州で行えるようになったという事ですので、処理方法とか処理量について教えてください。

○座長

お願いします。

○JESCO

処理方法は、午前中の、立入の時にもご説明させていただきましたが、粉末の活性炭を、その中にタールを含んだ PCB 油を通す、ということになります。PCB 濃度は 25%程度かと思います。タール分は、次の化学分解の液処理の妨害物質となりますので取り除くこととなります。そのように使用した粉末活性炭を、ドラム缶に回収しています。これは以前から北九州事業所では、真空加熱分離装置で無害化処理が何とかできていたのですが、大変処理効率が悪い状況でもありました

ので、一部を東京事業所に運んで、水熱酸化分解するということで取組んでおりました。ですが、東京事業所でトラブルもあり、一時的に送ることができなかった時期があったわけです。その際は、北九州でも真空加熱分離処理で、無害化は粛々としてございました。今般コンデンサーの年間処理台数が減ってまいりましたので、コンデンサーは同じ真空加熱分離装置で処理しておりますけれども、その分の真空加熱処理のバッチ数、これが減って参りましたので、廃粉末活性炭も事業所内で十分処理ができると状況になった次第でございます。

○委員

処理量はどれ位ですか？

○JESCO

幅を持った数字で申し訳ないのですが、年間で5 t から 10 t になります。

○座長

他にコメント、質問等ございますか。

モニタリングで新たに、これはプラズマ溶融に対してだけ、水銀の値がモニタリング対象になったという理解でよろしいですか。

○JESCO

法令上の規制が、プラズマにだけ大気汚染防止法が引っかかっておりまして、この装置だけが対象となりました。

○座長

その時に、このプラズマの装置が動いている前と後での水銀の量、という管理で捉えないと、絶対値で捉えると、この装置が原因であるかどうか、わからないような気がします。例えば、市のモニタリング結果にもあります水銀の値、大きくオーダーが違っています、2つの値で。この部分は、どう解釈したらよろしいのでしょうか。基準値以下だけで良いのかどうかを教えてください。

○北九州市

市の行政測定結果である水銀については、23 ページの上段の表 1 番右側の欄に書いてございます。プラズマ溶融炉につきましては、2 炉ございまして、2G7-1、2G7-2 とございまして、それぞれの測定をしております。今、座長がご指摘の通り、それぞれでオーダーが 1 オーダー違うというところでございます。これにつきましては、我々測定結果が出まして、即座に JESCO の方に、この原因について

の確認をしてございますので、詳細については、後ほど JESCO の方から説明をさせますけれども、やはり、プラズマ溶融炉の中の投入物の性状によって、若干数値に変動があるものというふうに我々は認識しておりますが、詳細については、今から JESCO の方から報告をさせます。

○座長

お願いします。

○JESCO

当社が行いました分析結果も、11 ページの表にございます、市役所様とほぼ同じタイミングで取りましたので、同じような状況が出ております。2G7-1 が 5.4 に対しまして、2G7-2 が 0.5 ということで、一桁違ったということでございます。この排気中の水銀の測定でございますけれども、4 月から測定対象となりました。法令上は、当事業所につきましては、年間 2 回以上の測定をするべきものということで、規定をされておりますけれども、これまで、測定実績がございませんでしたので、北九州市様のご指導を踏まえまして、当面の間は年 4 回測定していこうというふうには考えてございます。先ほどの北九州市からのご説明の通り、処理対象物による違いが出てくるのかどうかということにつきましては、今後も測定を続けまして、もう少し時間をいただいて評価させていただきたいと考えております。

○座長

他に何か委員から質問はございませんか。なければ、2 番目の議題に移りたいと思います。

議題 2 今後の安全かつ早期の処理完了に向けた取り組みについて、最初に JESCO さんの方から説明をお願いします。

○JESCO

資料 2-1 でございます。長期処理計画ということになります。1 ページ目の所につきましては、今年度以降、何台何 t 処理が残っているかということでございますので、資料 1-1 でもお伝えしていた内容が掲載されております。これは 3 月末の時点で作っている数字でございます。

2 ページ目の処理促進策というところでございますけれども、期限内確実に処理を完了するため取組むということでございますが、処理完了に向けた取組みといたしましては、1 つは自治体様との協力連携。これはすると考えてございます。

また、事業者様への訪問についても自治体様と連携をして、迅速、適切に対応していきたいと思っております。

また、安定器につきましては、保管場所での仕分け実施のために、事業者様への周知徹底、これを継続して取組んで参ります。また事業所内での仕分けも継続して取り組みます。処理対象の適正化は必須と考えてございます。また、この後ご説明いたしますが、3 kg未満の小さな小型電気機器でございますが、この一部につきましては、安定器等を処理しておりますプラズマ処理ではなくて、コンデンサーが減ってきており、処理のバッチに余裕が出て参ります真空加熱分離装置での処理、これができるという見込みを立てておりますので、この処理を進めたいと思います。

また北九州事業エリア以外からの円滑な搬入ということで、私どもの近畿・東海エリアをカバーする営業部門が大阪の方にありまして近畿・東海エリア分室と言っておりますが、こちらのほうの営業課員の増員と適正人員の配置をいたしまして、営業活動を積極的に行っていこうと考えております。また、東京事業エリアのコンデンサー、残るは300台程度になってきておりますが、これを持っておられる保管事業者様との計画的な搬入・調整を引き続き行って参ります。

続きまして3ページ、別添1となっております。横表ではございますが、これは毎年、長期処理計画ということで、年度が終わりますとその年度の処理実績を踏まえまして、残っているものを計画的処理完了期限までにしっかり処理が終えられるのかどうかということで計画を作り直しております、例年このタイミングでご報告をさせていただいております。

この3月末の結果を踏まえまして、今年度以降の処理計画というふうに作ってございます。当然のことながら変圧器、コンデンサーは今年度中の処理ということで、残っているもの、2台、6台、4台。あとコンデンサーが足して2,000台となりますけれども、これをしっかり処理しきることと、先ほどもご質問がありました、安定器及び汚染物等でございますが、残っておりますのが北九州エリアで約164tですとか、大阪・豊田エリアで約2,676tという数字でございますので、これをしっかり処理をし、計画的処理完了期限までに処理を終えたいというふうに考えてございます。

なお、今回のところで、昨年の計画から変更となった部分でございますが、先ほど申しました、小型電気機器の一部を真空加熱分離装置での処理、この処理重量を見込んでおりまして、30年度、31年度、32年度頃にはその処理重量を見込んで昨年度ご説明した処理計画よりも、単年度の処理重量が増えている状況がございます。

続きまして、5ページ別添の2でございますが、今年度の計画台数に対しまして、四半期毎で進捗管理とをして取り組んでございます。6月が終わっております。



すので、第1四半期部分に黄色く色付けしております。

大型の変圧器につきましては、第1四半期は実績がございませんでした。小型が1台、車載が4台となります。この5台共、3月に搬入をされて処理が終わったのが、4月に入ってからということで、今年度に計上したものでございます。今年度になってからは、まだ1台も入ってきておりませんが、残る7台につきましては、何とか第2四半期に計画をしているところでございます。

コンデンサーは、北九州と東京エリアのもので2,000台残っておりますが、何とか第3四半期までに全量処理、ということで取組みを進めてございます。第1四半期につきましては、800台という計画に対しまして、944台の処理を終えてございます。また、残っているコンデンサーも小ぶりのものが多くなってきているところでございます。

安定器及び汚染物等でございますが、こちらは年間で784t。プラズマ溶融炉は2炉ありますので、2炉の運転時間等によりまして、四半期のそれぞれの数字が細かい数字になっております。第1四半期で199tとなっておりますけれども、実績といたしましては176tということでございました。

この安定器及び汚染物等は、いろいろな種類のPCB廃棄物がございまして、プラズマで処理するときの効率が良いもの、悪いものがあります。安定器等は比較的効率よく、一定の時間あたりのt数としては多く処理出来るのですが、小型電気機器とか、その他の汚染物といったものは、少し効率が悪いといったところでございまして、第1四半期について、効率の悪いものが比率としては計画より多く入ったというところでございます。年間通しては、しっかり計画通り784tの処理に向けて、安全が第一ではございますが、取組みたいというふうに考えている所存でございます。

めくっていただきまして7ページでございます。こちらは資料1-1の方でも出て参りましたが、早期処理の取組みの一つといたしまして、小型電気機器、重量といたしましては3kgより小さいものでございます。

3kgより大きな物は、真空加熱分離装置で、これまでも無害化処理をしておりましたが、3kgより小さいものにつきましても、前回までの監視会議でもご報告しておりますけれども、中の構成部材は全く同じということもございまして、この装置を作ったメーカー等も、問題なく処理をできるだろうということも聞いておりました。前回の監視会議でもご説明いたしました通り、段階を踏みまして、1つの処理でこういった小さな物を3個や5個入れてどうか、また、10個入れてどうか、100kg入れてどうかということを繰り返して処理をして参りました。

実際の処理といたしましては、1つのドラム缶に約200kgずつ入れて4缶。これをまとめて処理をするということを考えておりますので、最終的にはそういった状況で処理を行いまして、ケースとか炭化物、また、銅、アルミといったすべ

ての構成部材で、PCB は分離除去されておりました、無害化が確認できたという所まで、前回の監視会議でご報告をしております。

その後、そこで回収した PCB を含んだ油の処理、これについては、回収液の脱塩素化反応による無害化処理についての、トリータビリティ試験を行いまして、SD 剤の投入量等、また、処理の時間はどうか、そういったことについて考察する、ということでございました。その後の取り組みについて、分かった事を 2 点ほどあげております。結論として、今後、3 kg 未満のものについて、継続的に無害化処理することは可能であるということを確認した次第でございます。

また、当社の方で、学識者で構成しております、北九州 PCB 処理事業部会といった場で、こういった取組についても報告し、継続的に処理することについては、承認いただいたところでございます。

記と書いております。分かったことの 2 つでございます。1 つは PCB 含有の回収油、この性状でございますが、通常処理しておりました高圧コンデンサーに比べますと、PCB の比率は少し低いということでございまして、投入重量の約 20% でございますが、オイルシャワーで、問題なく回収はできております。

また、回収した油について、後段の設備のところ、問題を起こさないか、閉塞性はどうか、また酸価の分析といったものを行いましたけれども、問題ないということを確認しております。

また、回収した廃 PCB 油の液処理が、問題なくできるかどうかでございます。トリータビリティ試験の結果、通常の処理条件、SD 剤の投入量ですとか、反応時間、これで無害化ができるということを確認できましたので、実機でも確認処理を行っております。処理後の反応液、固形残渣につきまして、写真で示しておりますけれども、いずれも無害化を確認したといったところでございます。

これを受けまして、一つ一つ確認を行って進めさせていただこうと思っておりますが、最後の 8 ページのところですが、今まではこういった 3 kg 未満の小型電気機器は、ドラム缶等の金属容器に入って運び込まれますと、私どものプラズマ溶融分解するために、まとまって入ってきたものを小分けして、25 kg ずつに詰め替えるといったようなことをして、プラズマに投入しておりましたが、下の方に変更しておりました、これは前回の監視会議でご説明しましたが、3 kg 未満の小型電気機器の中でも、チューブラコンデンサーといわれるようなものについては、塩化ビニルの被覆を巻かれているということで真空加熱をいたしますと、配管等を腐食させる成分を発生するのではないかとありますので、私どもの施設の中で、こういったものを取り除き、そういったチューブラコンデンサーについては、引き続きプラズマ処理、そしてそうでないものについて、真空加熱分離をして中間処理、脱塩素化分解をして処理をしようということで考えてございます。現在、一つ一つ確認して進めさせていただいているというところでござい

ます。

続きまして、資料 2-2 でございます。長期安全計画という事になります。こちら、平成 26 年以降、処理期間の延長等があった段階で、こういった長期安全計画を作って説明をするということで、これまでベンゼンの関係で一度見直しをした時、都合 2 回、長期安全計画をご説明をさせていただいております。

今回、一部変更がございましたので、その変更の内容につきまして、ご説明をさせていただきます。前回からの変更箇所は、下線を引いておりますが、1 枚めくっていただきまして、2 ページの所になります。先ほどご説明いたしました 3 kg より小さな小型電気機器、これを真空加熱分離装置で処理をしたいというふうに考えてございますので、真空加熱分離装置は、もともと今年度末までの操業と考えておりまして、今年度末までの長期保全計画等の予定を組んでおりましたが、33 年度までこの設備を使わせていただくということを考えた際、この処理設備については、平成 33 年度まで長期保全計画を作り直して見直したというところでございます。

めくっていただきますと別紙 1、これは前回とは変わってございません。保全の考え方を示す資料でございます。

次に 7 ページの別紙 2 でございます。今回 30 年度までしか考えていなかった保全計画に対しまして、真空加熱分離の小型電気機器の処理に伴いまして、一部の設備について、33 年度までしっかり計画を立てて保全に取り組んでいこうということで、ブルーの色をつけておりますが、それぞれ真空加熱分離装置（VTR）関係ですとか、中間処理設備について、長期保全計画を見直しております。

また、それに伴いまして、共通用役設備の部分についても、換気空調のダクトのようなものですとか、空調機・チラーの点検を行いますし、当然、クレーン・ホイストのような設備もございますので、そういったものも含めて 33 年度まで、点検を行っていこうということで、見直した次第でございます。

そういった長期保全計画に基づきまして 9 ページ、今年度に計画しております点検機器更新等、という内容でございます。

表の中で、上の段がトランス・コンデンサーの処理設備、下が安定器及び汚染物等ということでございます。この資料では、小型電気機器については、トランス・コンデンサー等のところでも処理するというので、計画に織り込んでございます。トランス・コンデンサー処理設備については、1 期の処理設備につきましては、今年度で対象物の処理が終わりますが、来年度以降も、建物内に設備等が残っていますので、換気空調設備がしっかり機能を果たさないといけない、ということもありますので、今年度もしっかり建物の設備の老朽化対策ですとか、換気空調、用役、その他設備の老朽化対策を行う計画を立てております。2 期処理設備につきましては、VTR 設備については、機器配管等の劣化対策ということ

と、中間処理設備、こちらについても、機器配管等の劣化対策を引き続き行うこと、また、操業当初に設置いたしました PCB のオンラインモニタリング装置でございますが、平成 21 年の稼働から、丸 9 年といったところでございますので、残る期間、今回 VTR を 33 年度までという事でもありますし、また、その後の設備の解体等、あるとしまして、まだもう少しかかると思いますので、装置自体を更新すると考えております。

また、下線が引いてありますのは、これは時間基準保全ということで、一定時間で更新すると決めた内容のものということで、非常用発電機の始動用バッテリーについては、今年度更新と考えてございます。

安定器及び汚染物等ですが、こちらでも平成 21 年度に設置しました、PCB のオンラインモニタリング装置について、更新を考えてございます。また分解炉周りの機器更新補修、排気処理設備の更新補修、恒温チャンバー、熱交換器の耐火物の更新、これも計画的に行うということで、30 年度の部分について、具体的に記載してございます。

続きまして、11 ページ、今年度の安全対策実施スケジュール及び実績となります。6 月までが実績となりますので、赤く塗りつぶしております。7 月以降は白抜きといった記載でございます。上の方が保全計画で、日常点検、また法定点検、自主点検といったものを 6 月まで計画通り進めてきたというところでございます。現在は、1 期設備の定期点検を 7 月末まで、実施中という事でございます。

また、長期保全計画で、今年度立てております更新等ですが、非常用発電のバッテリー更新につきましては、4 月 7 日に停電がございましたので、そのタイミングを捉えて更新を終えておりますし、プラズマ熔融分解炉につきましては、耐火物の更新・補修工事を行う際に、水冷ダクトでありますとか、そこに記載してあります内容のものの実施を終えているというところでございます。

また、トラブル発生抑制のための取り組みといたしまして、毎月リスクアセスメント推進活動といった取り組み、運転会社と当社、またオブザーバーとして北九州市様もご出席いただいておりますけれども、現場での軽微なリスクも、全て共有した上で一つ一つ対策を打つということを確認してございます。

また、他事業所のトラブル、他の 4 つの事業所で、発生いたしましたトラブルの水平展開も、逐次対応しております。

また、安全操業に向けた活動ということで、安全操業協議会という会を、平成 28 年度以降立ち上げておりますが、これも毎月開催し、事業所内での操業が安全に進むようにということで取り組んでいます。

続きまして、13 ページが他の 4 つの事業所で発生いたしました、トラブルの水平展開、1 月から 6 月分でございます。3 点でございます。

1 つ目が大阪で発生いたしました労働災害、1 月に発生しております。ポンプ

ピット室という部屋が大阪事業所ではありまして、ここの通路のところから、運転会社とか当社の社員ではなくて、分析会社の社員の方が、分析のために入られて、身を少し乗り出した形になったところ、転落しかけて、落ちないように、右手を着いたところ、手首の骨折をされたというものでございます。

北九州事業所での対応、一番右でございますが、トラブルが発生いたしますと、各作業員の方に注意喚起、情報共有といったことを当然図りますけれども、事業所内で同様のリスク箇所がないかということを確認いたしまして、同じような箇所がないということを確認しております。また、その他、転落等のリスクがあるような場所、こういった箇所につきましてはヒヤリハットですとか、改善提案、こういったものがリスクアセスメント推進会議の中で提案として挙がって参りまして、一つ一つ対策を打っていくというところでございます。

2番と3番は、北海道事業所のプラズマの排気の部分で、オンラインモニタリングで結果的には、PCBではない物質を拾ってしまつと確認されておりますが、高いのではないかとというのが、セーフティーネットの活性炭の手前の段階で、オンラインモニタリング装置で測定をしておりますけれども、そこで警報が出た、というところでございます。北海道事業所でそのような事象が発生したということでございます。そういった内容を北九州事業所でも共有しております。北九州事業所では、このようなオンラインモニタリング装置での測定での警報発報時の対応手順を、しっかり定めており、その手順書の内容で対応しておりますので、これについては問題ないということ、また現場の方で、この手順どおりされている、ということを確認した次第でございます。

続きまして、資料2-3も続けてご説明をさせていただきます。1ページが、この北九州事業所で1月から6月に発生いたしました、トラブル事象一覧ということでございます。こちらにつきましては、今日の午前11時から監視委員の方に現場を視察していただいた際に、この発生場所、対応状況についてご説明、また現場を見ていただいたという所でございます。

1番と2番と5番でございますが、これが同じ部屋の中で、同じような作業しているところから、PCBを含む液体が少量漏れたということで、それぞれ部屋の中での事象というところでございますけれども、そういった事象が発生しております。

1番については、使用が終わった粉末活性炭をドラム缶に充填する作業のところでのトラブルです。粉末活性炭は、シュートといったところからドラム缶に落とし込むわけですが、ドラム缶に充填が終わったら、シュート部分に蓋をして、またドラム缶の方にも蓋をしてドラム缶を交換することになります。充填後のドラム缶が充填する部屋から出てくるのですが、そのシュート部分の蓋のところに、途中付いていたものかもしれませんが、そういったものが蓋のところから少し垂

れたといったものでございます。ここの充填室自体は、通常人が入らない部屋でございまして、隣の部屋から操作をするといったところで、隣の部屋からも蓋の所の溜まった状況が、すぐ見てわかるように、カーブミラーをつけて、さらにその蓋のところには白い吸収剤を敷いて、少しでも漏れれば、すぐわかるような状態にして、処理ごとに、その状況を確認しておりまして、その後そういった同様の事象は発生しておりません。

2番のところでございますが、これは粉末活性炭と液を混ぜて、タール分を取り除きまして、活性炭除去フィルターのところ、その液とタール分を吸収した粉末の活性炭を分離するというので、分離した粉末活性炭だけを下に落とすというのがこのフィルターの役割でございまして、フィルターの下部のところに溶接部がございまして、ここのところにピンホールがあきまして、少量の漏れが出たといったところでございます。こちらは、内面からの樹脂補修を実施し、耐圧気密試験等で、新たな漏れがないことを確認し、運転を再開してございます。

5番は、同じ設備でございまして、別の箇所でもございまして少量の漏れがありまして、こちらも樹脂補修し、耐圧気密試験によりまして、新たな漏れがないことを確認し、運転を再開してございます。

3番のところでございますが、中間処理と書いております。中間処理で回収した油のタンク、このタンクに液を送りますと、タンクの中の空気が外へ出て行くところ、これがタンクベントの配管になりますが、このベントのところ、溶接部にピンホールがありまして、少量の漏れがありましたので、こちらの方、溶接補修、また樹脂補修での補修も行っておりまして、新たな漏れがない事の確認をしてございます。

1期の遠心分離器でございまして、これが1G4と1G5のモニタリングが、5月に計画してはいたができませんでしたのでございまして、この遠心分離器のベアリングの部分につきまして、ギアの破損が見つかったといったところでございまして、これにつきましてはギアの交換をし、1期の定期点検が終わった8月から運転再開と考えてございます。

続きまして2ページ、ヒヤリハット件数でございまして。これは6月までの一年間ということで、29年度の下期、30年度の上期の実体験、また、仮想のヒヤリハットの件数、また、下の方にその状況を示してございます。

実体験ヒヤリといたしましては、転倒ですとか、激突といったような、ヒヤリハットしたという事象があった、というところでございますし、仮想、こここんなことが起こるかもしれないといったものも、やはり、転倒とか激突といったようなものが出てきております。今日も、施設の視察をしていただいたと思いますが、私ども油・PCBを取り扱いますので、施設の中には防液堤、オイルパンといったものがありまして、段差等があるということになりますので、そういった

ものにつまずいて転倒するのではないかといったようなものが多かったといったところがございますし、比較的小さく区切って部屋がありますので、そういった中で狭くなった部分もありますので、激突の恐れといったものが懸念として挙がっているというところでございます。

続きまして3ページでございます。これも昨年度の同時期の監視会議で、ご説明いたしましたが、事業所に起きましては特にヒューマンエラーによるトラブル、これを無くそうという取組を29年度も引き続き行ったといったところでございます。1番のところ非定常作業、初めての作業、変更があった作業、久しぶりに行う作業、これについてミス防止として、しっかり手順を明確にしましてシミュレーションを実施し、入念な確認を行って、ヒューマンエラーの防止、これを引き続き実施しております。確実にヒューマンエラーといったものは減っている、という状況かと思えます。

また、こういった3H作業につきましては、当社の従業員も抜き取りで立ち会うといったことによりまして、しっかりそういったことを記録確認し、必要に応じて、その場で指導、是正するといったことも行っているというところでございます。また、手順書がわかりにくい部分について見直しを行い、ヒューマンエラーの防止を図っております。

また、設備変更等による対応、少量の漏洩トラブルの削減活動といったところでございます。工事が終わった後、再立ち上げの時に、少しそういったものが起こったことがあったということで、そういったときの工事管理の見直し強化、こういったものを図ったといったところでございます。

また過去のトラブルについて、風化防止も取り組んでおりますし、各人の安全意識の向上を図る、ということで教育研修を毎月実施しているというところでございます。以上でございます。

#### ○座長

これに関連しまして、我々監視委員8名は、午前中に資料2-3の1ページに記載されているトラブル事象発生箇所を中心に立入の確認をしております。それでは参加した委員から簡単な報告をしていただきたいと思います。お願いします。

#### ○委員

資料2-3ですが、我々の中で、事業所に対して、いくつか質問をしました。私の方からは、例えば4番目の遠心分離器のベアリング、またはギアの異常の想定をして運転を停止された。という点に対して、ベアリングないしギアの損傷の原因をはっきりさせて対策を考えて欲しい、というような質問をさせていただきました。私からは以上です。

#### ○委員

日頃から皆さんがいろんなところに配慮をして、トラブルが無いようにと、努力されている様子が分かったのですが、先程の委員の方がおっしゃったように、私も内部ギアの破損のところで、詳しくは無いのですが、あの中ので部品が、本当に欠けたりするのかなと。最初、1カ所かと思ったらギアの羽根のところ4カ所ということで、昔、飛行機の中で金属疲労があったということで、長年使うと金属疲労というのは研究された機械の中でも起こるのかなと思いながら、お話を聞かせていただきました。それと、このような暑い中、また冬は寒い中で、私の兄は、あのような工場の中で研究をしているのですが、その時に、中の機械は冷房とか暖房は人間を守るものではなくて、機械を守るためにしているんだよ、と私に教えてくれたことがあります。中を通っただけでもすごく今日は暑くて、汗びっしょりになる位の中で、作業をされている方はもちろんですが、それに耐えられるだけの、中の機械を守るだけのことをされているんでしょうけど、この暑さの中、耐えられるのかなと思いながら、施設内を通ったのが感想です。

#### ○委員

午前中、立入検査をさせていただきました、ありがとうございました。とても工場内が、清潔で明るい工場でございました。一つ、活性炭の交換ルールの内容と使用済みの活性炭の保管場所、在庫量が何と位あるかについて教えてください。

#### ○委員

午前中は、工場の中も非常に暑かったのですが、熱心に説明していただきました。今回からはイヤホンを通してクリアに説明を聞きまして、非常に良かったと思っています。

私からは、溶接部から多少これは経年劣化的なところもあると思いますが、液漏れをしているのが、4月と6月と2回にあったということで、その辺について、とりあえず樹脂で全部覆って対策をしたといったことなのですが、その辺について、これからまた、設備も33年度まで使用していかなくてははいけませんので、また、再度同じようなことがあってはいけないので、樹脂は当面の対策でいいのですが、その後、それらをどうするのか、今部品も調達をしていて順次交換をしていく、ということで万全を期すと説明がありましたので、安心をしたといったところでございます。以上です。

#### ○委員

今回の漏洩の事象は、やはり設備の経年劣化によるものが多いなと思いました。



前回、前々回のような人による作業ミスではなかったのが、ほっとしたところですが、1つだけ質問があるのですが、漏洩箇所の注意喚起のために、前回、札を下げるとおっしゃっていて、実際に下げていたのですが、今回どこにもなかったのですが、もう止めてしまったのでしょうか。

#### ○委員

先ほどの委員の方からもお話がありましたけれども、前回までハンドマイクで説明されておりましたが、今回イヤホンで聞けるような状態でありましたので、かなりクリアに聞こえて、説明がわかりやすく非常に良かったと思っております。以上です。

#### ○座長

最後に私からですが、今回は基本的には2つの装置、2つのユニットから漏洩という事象が起こって、もう一つ破損ですが、その漏洩に関しては、軽微な漏洩が起こったことによって、それに対して安全対策が適切にとられているということに感銘を受けました。我々の世代からすると溶接部分の漏洩は、溶接のやり直しじゃないと対応できないと思っていたのですが、樹脂という、最近の科学の進歩なのかもしれないのですが、シーリング樹脂という密封樹脂というものを使って、溶接の不具合をカバーできるというのは、凄い技術だなと思いました。それが私の印象です。

#### ○委員

ちょっとよろしいですか。私は、今日は視察に参加をしておりますが、先程の説明の中で、今も話が出ましたが、溶接部分のピンホールからの漏洩が少量であるという事について、それなりの評価をされている方もありますが、この溶接からのピンホールというのは、これは溶接の技術の不足です。内容物によって溶接部のピンホールが出ているわけではありません。ピンホールというのは溶接技術の不足です。ですから点検というのは中身を入れる前に、溶接部は大丈夫なのか、ピンホールは無いのか、この検査を十分にすべきです。例え少量であろうが、PCBの怖さは皆さん十分にご存知かと思えます。

それからもう一つは、トラブル事象一覧で、30年の1月から6月で、5件発生しております。これは限りなくゼロにするべきですね。半年で6件、私から言わせれば、これは異常だと思います。ですから、私としてはこれは定期的に、私は新幹線の技師の出身です。新幹線は2年に一回、全部ばらして検査します。多くの人の命を扱うわけですから、PCBも同じような状況だと思います。漏れた時は、土壤に浸透し拡散する。そのような性格を持っているものです。ですから私は、

ある程度、やはり定期検査・定期点検、これは1回、機械を止めてまででもするべきではないかと思います。そういうことを感じましたので、意見を述べさせていただきます。

○座長

2番目の議事の途中ですけれども、今の意見もありますので、ここで質疑応答に一旦入って、後の説明を市と環境省の説明をまた受けて、その部分に関して質疑等を行いたいと思います。今の意見に対して、JESCOさんお願いします。

○JESCO

1つずつ回答させていただきたいと思いますが、もし抜けがありましたら申し訳ございませんが、再度ご質問いただければと思います。

トラブル事象一覧の4番のところ、ギアの関係でございます。破損の原因でございますが、現在この事案についてはメーカーの点検を受けておるところでございますが、金属疲労が疑われるという一報を受けているようでございますが、正式な報告がまだ届いてない、という状況でございます。現在、今日来て見ていただいた2期の方に問題がない事は確認して、動いておりますけれども、1期の原因が分かりましたら、その対策もしっかり展開したいと考えてございます。

廃粉末活性炭ですが、保管場所につきましては、ドラム缶に入れまして、VTRで再度無害化の処理をすることもございますので、ドラム缶の状態です自動倉庫の中、管理している、人が入らない場所、ここに収めているというところでございます。実際どれぐらいの量がということでございますが、今日、立入の際にもご質問いただきましたけれども、どれぐらいの期間かということでは、直近の状況を見ますと、最長でも2ヶ月程度しか倉庫には置いていないということで、それほど量の多いわけではないのではないかと考えてございます。

2番と5番の設備のところ、溶接部の樹脂補修をさせていただいて、処理させていただいております。問題がないことを確認して、動かしておりますが、ご質問の中でもありました通り、本体を新しいものに変えようということで、現在、発注しておりますが、納入までに数カ月かかるということでございまして、11月に全体の設備を止めて定期点検をおこないますので、この時期に、この装置を入れ替えるということで考えてございます。

あと、札かけの問題でございますが、基本的に札かけといったものについては、ヒューマンエラー起因で発生したところに、札かけしているというところがございますが、今回の箇所は機器の経年劣化といったことが、主原因と考えてございますので、札かけがなかったということでございます。

ピンホールが溶接上の問題ということでございますが、言葉遣いが、まずかつ

たのかもしれませんが。確かに溶接している箇所については、非破壊の検査等で溶接部に問題がないかどうかというのは、工場の設置時に確認をしておりますし、また、定期点検で設備を1年に1回1ヵ月程度、全面的に止めて計画的に点検はやってございますが、今回発生いたしましたような溶接箇所が、その時に見きれていたかというのと、また疑問が残る点もございますので、今後の定期点検でこのような事象が再発しないように、生かしていきたいというふうに思っております。どうもご意見ありがとうございました。

#### ○座長

平野委員、今の説明でよろしいですか。もう一つ、平野委員が指摘されたのは、頻度が多すぎるのではないかと、という点がありますけれども、それに対しての答えがないようなので、お願いします。

#### ○JESCO

私どもも、当然こういった事象を、ゼロに近づけようということで、今まで取り組んできておりまして、まだ多いというご指摘で申し訳ないのですが、この1年2年では、少しずつは減らしてきているといったところで、今一つ、まだ努力が足りないのではないかと叱咤をいただいたのではないかと思います。取り組んで参ります。

#### ○委員

私、危機管理のことで、この会に参加させていただいております。まず、感想からですが、ここ数年にわたって、ずいぶん危機意識の捉え方というのは、JESCOの皆さんも進化をしてきているのだと率直に思います。私の感覚ではもう一步のところを話させていただきます。

ここで5つの事象が出てきましたけれども、合わせて資料の2-2の5ページの所、保全の方式のせっかくこの紙があるわけですので、それに対応させて話します。それぞれ1から5のトラブルのどれが時間基準の保全だと思っていたが、実はそうではなくて、状態基準にしなければいけなかったのか。逆に、状態基準だと認識をしていたものが、そのトラブルを経験する事で、これは時間基準に変えなといけないというふうに思っていたかが肝心だろうというのが1点です。

合わせて、今、処理する物が微妙に変わってきています。物が変わってくることで、本来ならば状態基準保全、もしくは時間基準保全で、行ふべきであったものが、この時間の短縮が起こり得るなというふうに思えたかどうかだろうと思うのです。4番の金属疲労の問題については、もしかしたらJESCOではなくて、機器を作っている会社のほうの問題かも知れませんが、そういうことを踏ま

えて、これが本当に気づいたというのであれば、それは素晴らしい話だと思うのですね。ただ、金属疲労であれば、これは大問題です。高速で回って危険ですというのと同じように、もう一つ、今、他の事業所で起きた 13 ページの所、大阪で起きた所で、右手首の骨折です。これについては会社の人じゃない人が入ってきたから、というご説明でした。おっしゃるとおりです。ところが、ここ、まさにご説明をご自分でされたように、これって非定常作業なのです。非定常作業で、慣れない人が行ったことによって、発生をしたということで、つまり、慣れない人が入ってきた、非定常事態の時に、我々はどういうバックアップをすべきだったのか、ということについて、配慮がなかったというのが、多分この危機に対する、一番大事なところだろうと思います。

JCO の事故の時に、二人お亡くなりになりましたけれども、あの人は、その日に初めて入った人です。本来、その作業をしていなかった人です。もちろんマニュアル自体めちゃくちゃだったのですけれども、それだけではなくて、初めて入った人が、あの事故に遭われてしまったというようなことが、あった状況があったこともぜひ踏まえて、この非定常作業のことを考えていただければ有難いなと思います。

それらを踏まえて、5 ページのところで保全をするというところについて、最後のお願いです。保全チェックをするという事は、マニュアルなんかで決められているのですけれども、日本の多くの事故は、この保全するチェック項目から、その配管自体が外れていたとかですね、原発の事故でもそういうことがよくあるので、もう一度、全体的に、まさかチェック項目から外れてないことをぜひご確認いただければと思います。以上です。

○座長

JESCO さんお願いします。

○JESCO

ご意見、大変ありがとうございます。只今、いただきましたご意見を持ち戻りまして、しっかり、現場の方の今後のトラブルの数を減らすこと、また、保全がしっかりなされているかのチェック、これをさせていただきたい、というふうに思います。ありがとうございます。

○座長

私の方から、もう一点コメントがあります。要するに、廃活性炭の処理を施設で行ってますよね。プラズマ処理は、されていないのですか

○JESCO

粉末活性炭は VTR で処理をしまして、プラズマは排気系統に使っている粒状の活性炭の処理を行っております。

○座長

その粒状の活性炭について、水銀の含有量の検査をされていますか、という質問なのです。もし、それをプラズマにかけているのであれば、という話です。もしされていないのであれば、是非ともしておいた方がいいと思います。

○JESCO

ご意見ありがとうございます。まだ検査していませんので、しっかり確認したいと思います。

○座長

今の議題 2 の前半の話で、他の委員の方ご意見ありますか。

それでは、無ければ、議題 2 の後半に移らせていただきます。環境省の方からお願いします。

○環境省

ありがとうございます。お手元の資料 2-4 をご覧ください。PCB 廃棄物の早期処理に係る国の取り組みといたしまして、特に、今年度末、計画的処理完了期限を迎えます、変圧器、コンデンサーを中心に、国の取り組みをご説明させていただきます。

下のスライドでございますが、処分期間内における取り組みということでございます。こちら、先ほど JESCO からのご報告がありましたけれども、平成 16 年から、全国初の PCB の処理施設、ここ北九州市の皆さまの多大なるご協力、ご理解の下で、開設させていただきまして、今年度に至るまで、昨年度末まで、約 10,000 事業所からの変圧器約 3,000 台、コンデンサー約 60,000 台を処理させていただきました。これにより、大半のものが処理を終えることができております。

また、残りの部分につきましても、基本計画に定める計画的処理完了期限の達成のために、関係者とも協力をして、最後の最後までしっかりやらせていただくということで、行政処分等の準備等、あらゆる措置を講じてきたところでございます。

その一つといたしまして、掘り起こし調査というものがございます。もともと大半は、工場事業所から、この PCB の問題発覚当初から、保管していただいた物、これを処理するということが大半でございました。ただし、一方で中小企業を含

めて、まだ一部を持っていることに気づいていない方、そういったところがあるということで、今回最後の確認ということをしていただいております。

具体的には、資料にございます通り、PCBの含有の有無に関わらず、変圧器、コンデンサーをお持ちの事業者、約160,000事業者に対して、アンケート戸別訪問等で、全て確認させていただくということをしております。

この結果、北九州事業エリアにおきましては、30年1月までに調査を一通り終えまして、この結果から、今までをお持ちだった方々の、約8%にあたる所、また、調査対象者全体からは、0.6%にあたる事業者から、新たに見つかっておるところでございます。

また2点目といたしまして、財政支援もしっかりさせていただきました。この処理にあたっては、中小企業の皆さまに対しては、約70%の軽減措置がございます。また、昨年度からは中小企業の方に対しての、低利融資の制度も開設しております。この制度を活用していただきまして、これまで基金からは約、延べ7,300事業者に対して支援をさせていただいた、ということで処理をしっかり進めさせていただいております。

また、3点目といたしまして、JESCOからもありました周知広報の実施ですが、こちら先ほどJESCOからも口頭でありましたが、テレビCMなどを、年度末最後にかけて、やらせていただいて、最終的な最後の最後の確認という事をさせていただきました。

ページをおめくりいただきまして、今年度に入ってから取組ということになります。昨年度末までが、PCBを保管している方々が、JESCOに対して、処分委託の契約をしなければならない期間でございました。今年度に入りまして、残っている方々に対しては、行政処分の対象ということになります。

具体的にはこの図、ちょっとわかりづらいのですが、緑色の所。まだ、使用中のものが万が一残っていた場合には、電気事業法に基づく命令により、速やかに廃止をしていただく、ということになります。

また、廃棄物となっていたものにつきましては、保管をしている方に対しては、改善命令により速やかにJESCOに処分委託をしていただく。また、それに応じていただけない方々には、行政が代わりに処分をして、処理費用を徴収するという、行政代執行をさせていただくというような、スキームになっております。

具体的な取組の状況でございますが、下のスライドに記載しております。まず、前段階、昨年度末までにおきましても、事前準備といいますか、状況の把握ということで様々な取組をして参りました。具体的には、昨年度末時点でJESCOに契約を頂けない、処分委託の見込みのない、事業者の見極め、情報収集などを実施いたしまして、報告徴収、立入検査等の権限も活用して、情報収集を務めております。また、今年度に入って行政処分を速やかに実施できるような準備を整えた

という状況でございます。

矢印の下のでございますが、今年度に入りまして、未契約の事業者で、一部契約手続きを進めている事業者もございますけれども、現在、我々が自治体と連携して把握している行政処分の対象となる可能性が高い事業者、これは、6月末時点の数字を書かせていただいておりますが、この北九州事業エリア、中国、四国、九州、沖縄の中で14件あると把握しております。これらにつきましても、最後の所にありますが、現状を全て把握している事業者に対して、全てについて、各自治体において対応が着実に進んでいる状況でございます。

具体的には、この真ん中にあります矢印の状況でございますが、6月中旬には、全国初となります、改善命令が1件、発出されておりました、残り6件についても、命令の発出・手続き等が、実施されている所でございます。最新の状況では、6件のうち、2件も改善命令が発出されたという状況でございます。期限内に履行していただけない場合には、行政代執行に移って行って、着実に処分をするということになります。

また、2つ目の矢印でございますけれども、14件のうち保管事業者が既に破産等をしているという理由より、改善命令をかける対象がないということに対しては、直接行政代執行を行う、ということになっております。これにつきましては、6月末時点で1件、また、現時点ではさらに1件追加いたしまして、行政代執行の前提となる公告手続きを実施しております。すなわち、もう代執行に入ることですので、スタートした状況でございます。

また、残り5件につきましても、具体的な準備を進めているところで、それぞれこの14件についてしっかり、計画的処理完了期限が達成できるような、手続きは着実に進められているという状況でございます。

次のページに進んでいただきまして、自治体への支援の取組でございます。今、申し上げました行政処分の取組というのは、中国、四国、九州、沖縄の各自治体が、県と市が取り組むようになっておりますけれども、環境省も二人三脚で一緒になって、この取り組みを進めるということで、大きく2点ございます。

1つは地方環境事務所を軸とした、自治体支援でございます。こちらにつきましては、平成29年度以降、地方環境事務所、中国、四国と九州にございますが、こちらにPCB廃棄物処理推進に係る専任の任期付職員を採用すると共に、職員にもこの業務に当たるということで体制増強を努めて参りました。特に、北九州事業エリアにおきましては、PCB専任の福岡事務所長併任、職員を配置いたしまして、前回の監視会議でのご報告では、13名で対応に当たっていると申し上げましたが、今年度に入りまして、さらに体制を増強いたしまして、現在では計17名で対応させていただいております。

このメンバーは日々現場に出て、自治体の皆さんと共に、この行政処分の対応

について一緒になって取り組んでいるという状況でございます。特に、行政処分  
の段取りや法解釈、実施に当たっての技術的事項等について、幅広く助言や現場  
への同行などを行っている状況でございます。

また、2点目といたしまして、行政代執行支援業務でございます。こちらにつ  
きましては、自治体が代執行実施する際に必要となる手続きが迅速に適正に遂行  
されるよう、現場での確認作業や代執行を行うにあたって、必要な手続き、技術  
的な側面が大半ですけれども、こういった設備が必要になるのか、そういったこ  
との確認、または、代執行上、必要な書類の作成支援といったところ、これを予  
算事業で措置をいたしまして、専門家を派遣する、という取り組みを行っており  
ます。特に、平成30年7月豪雨の影響を受けている地域の状況は、被災状況も  
こちらで把握致しておりますし、自治体の取り組みも非常に困難な状況になって  
おりますが、こういった予算事業も活用して、また、環境省の体制もしっかり確  
保して支援をしながら、期限内にこの計画的処理完了を達成できるように取り組  
みを進めていく、という状況でございます。

以降は参考資料といたしまして、今ご説明したものの詳細などを添付しており  
ますけれども、ご説明は割愛させていただきます。以上でございます。

#### ○座長

続きまして、北九州市の方からお願いします。

#### ○北九州市

それでは、私の方から、安全かつ早期の処理完了に向けた市の主な取り組みと  
いうことで、資料2-5を使いましてご説明をさせていただきます。

大きく分けて、2つの取組を行っております。まずは、処理の安全性の確  
保。それから、2つ目は期間内での確実な処理、といったことで取り組まさせて  
いただいております。

まず、1点目の処理の安全性の確保でございます。北九州PCB処理事業所にお  
ける、処理の安全性を確保するためには、まず、トラブルの未然防止のための取  
組み。それから、安全対策のルールに則った確実な操業といったことが、不可欠  
でございます。そこで本市では、報告徴収や抜き打ちによる立入検査の実施や、  
JESCOと運転会社等で行っております会議への参加によって、リスク情報を現場  
から直接収集いたしまして、必要に応じて助言・指導を行うなど、適切な操業・  
管理を徹底しているところでございます。

続きまして、2点目の期間内での確実な処理でございます。本市におきまして  
は、これまで、PCB処理事業の安全かつ期間内での早期処理の達成のために、国  
や関係自治体との会議の開催や、関係自治体への個別訪問によります取組状況の



把握、それから、本市取り組みの水平展開・早期処理の為の更なる取り組みの強化の要請、といったことを行って参りました。今年度末には、いよいよ変圧器・コンデンサーの計画的処理完了期限を迎えます。引き続き、国や関係自治体と連携しながら、期限内処理の達成に向けて、取り組んで参りたいと考えております。以上でございます。

○座長

今の環境省及び北九州市からの説明に関して、委員の方コメント・質問等がありましたら、お願いいたします。特にございませんか。では、3番目の議題に移らせていただきたいと思います。

### 議題3 その他

○座長

3番目はその他という事になっていますが、実際には、北九州PCB処理事業所施設解体撤去の進め方についてという資料3がありますので、これに基づいて、ご説明をお願いいたします。

○JESCO

はい。それでは、資料3に基づきまして、ご説明をさせていただきます。このようなご説明をさせていただきますのは、監視会議で初めてということになります。

施設解体撤去の進め方（案）となります。目次でございますが、はじめにというところ、また、方針・順序・進め方・まとめ、という順番で、資料をまとめております。ご説明いたします。

めくっていただきまして、3ページの上のところでございます。はじめに、でございますが、PCB処理施設は、営業物処理が終了した後、施設の解体撤去を行うこととなります。北九州の施設解体撤去の具体的な方法の検討を進めるにあたりましては、解体撤去の進め方等に関して、ご報告するという事でございます。今後、検討の進捗に合わせまして、逐次、ご報告を行って参りたいと考えております。

解体撤去の方針でございますが、解体撤去の基本の方針としては、当然施設の中にも、一部PCB廃棄物となっている設備等がございますので、しっかりこれについて、無害化処理を行う。また、解体撤去に関しましても、周辺環境に対して、しっかり配慮させていただき、また、施設内で解体撤去に取り組む方達の、作業者の安全衛生管理にもしっかり取り組む必要がある、と考えてございます。

また、情報共有の基本方針、情報共有も大切だと思っております、立地自治体様との事前協議、また、解体撤去前の監視会議、また、地域住民の方との情報共有。解体撤去開始後は、進捗等の情報共有。これも合わせて、対応させていただく必要があるだろうと考えております。

次のページ、5 ページ、解体撤去の順序となります。営業物処理が終わった後は、プラントをまず、除去分別と言っておりますが、PCB を除去して行く、クリーニングする、綺麗にする、ということですが、そういった事をした後、プラント設備の解体。そして、処理スペースの建築物、これについても、PCB の汚染が考えられますので、除去分別をしっかりする。そして、建築物の解体、ということになろうかと思っております。解体撤去の計画実施は、適宜、監視会議へのご報告、地元現場説明等を行いながら進めて参ります。営業物処理が終了した後、行います。設備、機器、床、壁等に内在、付着している PCB 除去、分別を行います。プラント設備、建築物の順に解体を行います。環境モニタリングも、この時期適宜行い、報告を行わせていただくと考えております。

解体撤去の進め方として、1 から 4 までございますが、計画段階といったところで、撤去技術の検討、PCB 状況の調査ということで、現状でも、施設の中で、PCB の付着状況はどういったものかを、事前に確認をしていこうということです。そして、基本計画を作成し、入札契約段階となっておりますが、私ども自身が解体撤去するのではなくて、やはり、そういった専門の方たちに、解体撤去の部分は、お願いせざるを得ないというふうに考えておりますので、その内容を、仕様書と言われる書面にまとめまして、私どもとして、こういう風に考えている、先にご説明しました、基本方針等、色々ありますので、そういった内容を、書面に条件として出して、そういった条件を、受けていただく方と入札契約をする、といった形になろうかと思っております。

契約後は、実施準備段階で、施工要領、どのように解体撤去を進めるかという手順書のようなもの。また、実際に解体撤去の段階になっても、もう一度調査が必要かと。また、地元説明会、そして、こういう撤去も施設を設置した時に申請しております、許可申請等がございますので、撤去にあたっても、そういった申請が必要だろうと考えておりますので申請届出、また、撤去前の段階でも、環境モニタリングを実施し、実施段階でも除去分別、また PCB 状況調査、環境モニタリングを行いまして、終わった後についても、土壌汚染調査、また、モニタリングといった事を行う必要があると思っております。適宜、こういった監視会議へのご報告、地元現場説明会等を行いながら、進めて参りたいと考えております。

最後、7 ページのまとめとしておりますが、解体撤去技術の具体的な方法の検討を、今後も進めてまいりたいと考えております。JESCO では、この解体撤去に関しましても、有識者の方で構成される委員会等で助言を受けながら、この計画

を作成してまいりたいと考えております。適宜、北九州市様、環境省様との協議を進めて参ります。検討の状況は、監視会議、地元住民の方と情報共有しながら、検討を進めて参ります。今後とも、こういった場でご説明させていただきますので、ご指導ご鞭撻をお願いいたします。

簡単ではございますが、以上です。

○座長

今の件に関して、委員の方から何かコメント等ございますか。

○委員

解体撤去は、5つの事業所がありますけれども、1番最初がまず北九州なのでしょうか。これからの計画だと思うのですが、もう解体する順番は決まっているのですか。

○JESCO

まだ、明確に決まっているという事でもないですが、最初に処理が終わりますのが、今年度の変圧器・コンデンサーでございます。このうち、変圧器については、ちょうど北九州は建物が2つに分かれておりまして、最初に設置した方の建物だけで処理しておりますので、最初に設置した建物で処理するものがなくなれば、やはりそのまま残しておくよりは、中を綺麗にするとか、建物を全部撤去するというのは、また検討が必要かと思いますが、少しそういった解体撤去の一部は進めていく事になるのではないかと、私は考えております。

○座長

解体撤去に関しては、環境省で、一応予算付けを行っていますよね。少し説明していただけますか。

○環境省

はい、ありがとうございます。今、座長からご指摘いただいた通り、このPCB事業は、無事完遂いたしましたならば、地元の皆さまに綺麗にしてお返しするように、解体撤去は、今JESCOからの報告があったような作業をさせていただきます。こちらについては、予算等也非常に巨額なものがかかるということが、事前に予測されているものでございますので、事前に出資金という形で、JESCOに毎年定額を積み立てて行っております。ちなみに、今年度におきましては、30億円の予算を措置いたしまして、積み立てをしているという状況でございます。今後についても、解体撤去の費用を円滑に実施できるように、必要な予算措置を講じ

ていきたいと思っております。

○座長

ほかに何かありませんでしょうか。私から一点。ただ今の JESCO の説明で土壌汚染の調査をする、だから今まで漏洩がないのだから、土壌汚染は無いですから、土壌汚染を調査するのではなくて、汚染されていないことを確認する手順を考えるという事ですよ。なかなか難しいですよ。汚染されていることを確認する事はいいのですけれども、汚染されていないことを確認するという事は非常に難しい技術だと思うので、その辺を十分に準備されて行ってください。

○JESCO

ありがとうございます。しっかり取り組みたいと思います。

○座長

他にございませんでしょうか。では、本日の議事を終了して、事務局にお返しいたします。

○事務局

浅岡座長、委員の皆さま、お疲れ様でございました。本日、賜りましたご意見につきましては、今後の北九州 PCB 処理事業に対する監視指導にしっかりと活かして参りたいと考えてございます。

次回の開催時期につきましては、また、関係者の方々と調整の上、決定させていただきたいと思います。その折には、改めてご連絡をさせていただきます。

それでは、以上をもちまして、第 40 回北九州市 PCB 処理監視会議を閉会いたします。本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。